

令和5年度第1回庄原市外国語教育研修会

令和5年7月7日（金） 庄原市立庄原中学校

<研修会の目的>

- ・ 中学校外国語科の授業研究を通して、本市中学生の実態及び中学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・ 外国語科の授業づくりのポイントについて理解を深め、本市外国語教育の充実に資する。

【研究授業】第2学年 Our Project④「夢の旅行を企画しよう」

授業者 庄原市立庄原中学校 教諭 西崎 宣行、ALT Brian Sherly

本時の目標

聞き手を意識したプレゼンテーションをする際のポイントは何かを考え、そのポイントを生かしてプレゼンテーションの練習をする。

<指導のポイント>

☆生徒が意欲的に取り組むことのできる単元のゴール（「ほんもの」のコミュニケーションの場）の設定

⇒単元のゴールを「ALTが楽しむことができる旅行プランを企画・プレゼンし、夏休みの旅行を考える手助けをしよう！」と設定し、単元終末には、6名のALTへ旅行プランを伝えたり、質問に答えたりする場を設定する。英語で伝える楽しさを実感させるとともに、英語による即興的なやり取りを行う力の育成に繋げる。

☆相手意識をもたせるためのALTと連携した中間指導

⇒旅行プランのプレゼンテーションに対して、ALTから様々な質問をしてもらい、生徒に困り感をもたせたり、単元のゴールに立ち返らせたりすることで、相手意識をもつということは、内容面を相手の立場で再考する必要があることに気付かせ、再チャレンジさせる。



【研究協議】①生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導の工夫について

②外国語教育を充実させるための取組について

<協議内容>

- 単元の目標や目指す子供の姿に向けた一貫した指導が参考になった。
- 言語活動を充実させるために、単元のゴールに立ち返らせたり、やり取りを行う相手を変え、繰り返し取り組ませたりすることが大切だと感じた。
- 相手意識、必然性、即興性を単元のどこで設定し、指導するかを含めた単元構想の大切さを改めて感じた。
- 「間違ってもOK、何かを伝えようとするのが大事」ということを教師がモデルとして示したり、生徒を褒めたりして伝えていきたい。
- 英語で自分の思いが伝えられる喜びを実感させられる場面を様々な場につけていきたい。
- 小学校からの積み上げの大切さを感じた。既習表現の活用等検討していく。



【講話・演習】「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた外国語科の授業づくりについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 藤井 遥

■外国語科の授業づくりのポイントを確認し、単元計画を立てる演習を行った。

- ☑コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定すること
- ☑ゴールで目指す児童生徒の具体的な姿（発話例等）のイメージをもつこと
- ☑毎回の授業においても、単元のゴールに繋がるような言語活動を設定し、児童生徒が自分の考えや気持ちを伝え合えるようにすること
- ☑英語によるコミュニケーションの楽しさや意義を実感できるようにすること



【参加者の振り返りより】

- ・ 「ほんもの」にこだわって課題を設定することで児童生徒の意欲が向上すると思った。
- ・ 教室でのやり取りで終わらせず、実際に複数のALTにプレゼンするといった場を設定したい。
- ・ 毎時間、単元のゴールを児童がイメージできるように授業を展開していきたい。
- ・ 単元終末の子供たちの姿を明確にしておくこと、その姿に向けて言語活動を仕組むことがとても大切だと感じた。
- ・ 言語活動の充実を図った授業づくりが大切だと感じた。児童が思考し、考えを伝えようとする活動を意図的に設定していきたい。